

第 40 回

日本リンパ学会総会が

6月24日(金)～25日(土)に

東京大学 伊藤国際学術研究センター
にて 開催されます。

当院からは

血管外科センター長 今井崇裕 医師が

学術発表致しますので、ご紹介致します。



The 40th Annual Meeting of the Japanese Society of Lymphology

第40回 日本リンパ学会総会

平成28年

会期

6月24日(金)~25日(土)

会頭

清野 宏

東京大学医科学研究所 国際粘膜ワクチン開発研究センター
センター長・炎症免疫学分野 教授

会場

東京大学 伊藤国際学術研究センター

〒113-0033 東京都文京区本郷7-3-1 電話:03-5841-0779

テーマ

**Immunology Meets with Lymphology for
Fusion Science**

「当院におけるリンパ浮腫診療の現状と課題」

Current Status and the Issue for Lymphedema Treatment

今井 崇裕¹、田垣内 祐子²、竹中 美鈴²

¹西の京病院血管外科

²西の京病院看護部

TAKAHIRO IMAI¹, YUKO TAGAITO², MISUZU TAKENAKA²

¹ Department of Vascular Surgery, Nishinokyo Hospital

² Nursing Department, Nishinokyo Hospital

抄録

当院はDPC(Diagnosis Procedure Combination)の導入された248床の中規模病院である。当科の昨年度外来患者の内訳は静脈疾患80%、動脈疾患3%、リンパ疾患14%、その他3%であった。静脈疾患は2011年に下肢静脈瘤の血管内焼灼術が保険適応となったことで増加しており、動脈疾患は循環器内科の血管内治療の適応が拡大したことで減少傾向にある。またリンパ疾患は3年前の13%から昨年14%とほぼ横ばいで推移しているが、治療に関わる地域医療機関が少なく、患者の割合は少ないながらも、地域では重要な役割を担っている。

現在は医師1名、リンパ浮腫療法士を取得した看護師2名、弾性ストッキングコンダクター取得した看護師10名、リンパドレナージを担当する理学療法士3名でクリニカルパスを使用した四肢リンパ浮腫教育入院や通院での継続加療にあたっている。弾性包帯とストッキングを使用した圧迫療法、リンパドレナージ、スキンケアの実施や指導など治療には多職種(医師・看護師・理学療法士など)に係るが、対費用効果が良いとは言い難いのが現状である。

教育入院においては「リンパ管およびリンパ節のその他の非感染性障害」入院期間III 8日超で1'620点であり、下肢静脈瘤の2日以下で2'247点と比較すると低い印象である。リンパドレナージは「運動器リハビリテーション (I)」1単位180点で請求していたが、昨年指導が入り「消炎鎮痛等処置 マッサージ等の手技による療法」1日35点に変更された。

2008年の弾性着衣・包帯の療養費払いやリンパ浮腫指導管理加算など診療報酬の改定が進んでいるものの、疾患の認知度は低く、患者を中心とした治療体制を構築して、コメディカルが活躍しやすい院内環境の整備や質の良い医療の提供には、当院の病院経営的な側面からは様々な課題を有している。その現状と課題について報告する。